

昭和31年6月18日第3種郵便物認可
毎月1回1日発行
定価1部15円
印刷所 田辺印刷株式会社
上田市原町 TEL 1492

千曲会報

昭和36年5月1日

編集兼発行人 小林 尚一
発行所 社団法人千曲会
長野県上田市常入信州大学繊維学部内
振替 長野 6243・東京 43341
電話 上田 1215(代表) 1218(直通)

繊維学部既存学科の再編成について

信州大学繊維学部長 小 泉 清 明

昭和36年度に実現を期待した本学部の改新計画の第2段階である既存学科の全般にわたる再編成が、この4月11日から実現したので、その概要をお知らせする。

この度の学部改新計画はもともと既存学科の改称改組の意図から出発したものである。戦後わづかに10年ではあるが、学部に関係した世相は激しく移り変わり、学部が今まで歩んできた機構や態度では、この激変についてゆけないため、学部機構の全般にわたる再検討の必要に迫られたのが、改新のそもそのきっかけである。第1段階として実現した繊維機械学科の新設も、この計画の一環としての産物である。

既存学科の改称改組は、法的の手続きとしては、3月18日開催された信州大学評議会において、繊維学部に関係した学則の1部を、下掲の如く改正し、文部大臣からその内容が、3月23日の大学設置審議会の常置委員会に報告され承認を得て成立したのである。下掲の如く表向きの取扱いとしては、養蚕、紡織、繊維化学の3学科の名称変更と、製糸学科の廃止ということになる。中で特にめだつのは製糸学科の廃止であるが、これは産量の減少や自動繰糸機の普及のために発展的解消をただけで、従来の講座と教官はそれぞれ専門に従って繊維機械学科と紡織工学科に所属された。なお再編成の実現によって、学科の数は従来通り4であるが、毎年の学生募集定員は50名、教官数は専門教育10人一般教育3人の増員になる。

信州大学学則一部改正案

信州大学学則の一部を次のように改正する。

第十条中

「繊維学部

養蚕学科	120名
製糸学科	120名
紡織学科	120名
繊維化学科	140名」を

「繊維学部

繊維農学科	120名
紡織工学科	240名
繊維工業化学科	140名
繊維機械学科	50名」に

第五十条中

「繊維学専攻科

養蚕学専攻	5名
-------	----

製糸学専攻	5名
紡織学専攻	5名
繊維化学専攻	5名」を
「繊維学専攻科	
繊維農学専攻	5名
紡織工学専攻	10名
繊維工業化学専攻	5名」に

改める。

附 則

この学則の改正は昭和36年4月11日から適用する。

註：一上記の学生数は昭和36年度の総定員である。従って繊維機械学科は学年進行にともなって毎年定員の改正を行う。また4年後繊維機械学の専攻科ができれば紡織工学科の10名中5名がその方に移される。

以下新学科の内容について概説する。

繊維農学科

養蚕学科から移行した学科で、従来の養蚕一辺倒の内容を改め、この外にも毛、棉、麻などの天然繊維全部にわたって生産から、生産物の品質鑑定、原料処理までの過程を研究する。また養蚕も基礎農学を重視して農業の一部として習得させる。学生には3年目から繊維原料コースと蚕糸コースに分けて勉強させる。講座は繊維動物学、繊維作物学、養蚕学、蚕種及遺伝学、栽桑及土壌肥科学、病理害虫学の6で、学生定員は30名。

紡織工学科

表面的には従来の紡織学科の中に製糸学科の一部が編入された学科である。

従来の紡織学科と製糸学科の機構は、各種各様の特徴をもつ新繊維の相つぐ登場や、めまぐるしい工程の進歩には対処できないので、単なる技術の習得から、工学的基礎をもった学科に切替える構想で、内容とともに名称も変えた。ここでは特に繊維の物理学と機械学に基礎をおき、工程の計測と管理に重点をおく。従って繊維機械学科とは密接不可分の関係を保って進む。講座は紡績学、製布学、製糸学、繊維物理学、繊維計測工学の5で、学生定員は予算技術の関係から60名としたが、37年度の概算要求でその数は是正する予定である。なお従来の製糸学科の勉強をしたい学生は、科の中の製糸学コースの学生として取扱われる。

繊維工業化学科

従来の繊維化学科がそのまま改称された。初めの改新計画

では、この科に繊維化学の進歩の現状に対処するため、有機合成化学と高分子成型の2講座を増設する予定であった。これは一面将来計画である高分子工学科増設の礎石とする含みをもつが、本年度は機械学科増設のために見送りになった。科名の改称は講座増設を予想、全体としての工学的色彩を考へて行ったものである。現在の講座は高分子化学、天然繊維化学、化学繊維学、色染加工学の4で、学生数は35名。

繊維機械学科

内容は本会報の3月1日号に報告してある。新設に関する文部省案は3月30日大学設置審議会の総会で承認され、予算も4月1日早朝国会を通過した。新学科の建物は総建坪720坪のうち、本年度300坪が鉄筋3階建てで着工される。場所は第1号教室(生物学教室に南接した2階建て)をこわしてその跡地になる。こわした教室は学生の寄宿舎に移築するよう日下文部省と交渉中。また教室の減少についても対策を攻究中。なお新学科の設備費は2400万円が3000万円に増額される見込みである。

一般教育部

信州大学の一般教育は現在、松本(文理学部)長野(教育学部)上田(繊維学部)の3地区で行われている。これを一般教育部として松本地区に統合する案が、創設以来討議され、一昨年からはその研究が特に活発化してきたが、いろいろの複雑な事情のために実現は困難である。

わが学部では、時代がますます視界の広い豊かなバランスのとれた教養をそなえ、末梢的な技術面よりはむしろ基礎科学をしっかりと身につけた人材を要求する現状にある事に留意し一般教育にも専門教育に劣らない重点をおくことになった。このために従来一般教育が文科面、理科面に分けて実施されていたのを両者を融合した一本のものとし、教官陣容の強化をはかるため、来年度3名の新任に先立って、本年は専門教

育から1名の移籍を実行した。また学生に対しては、定められた一般教育の単位を完全に履修しなければ専門教育への進学を認めない内規をつくった。

増設ならびに改編された新学科はいつれもこの4月1日ないし11日から発足し、4月12日新制度による入学宣誓式を挙行した。本年度の志願者と入学者は別掲のようで、志願者は必ずしも多くはなかったが、これは入学者募集が新計画の法的手続きの完了しない2月(10~20日)に旧制度の下で行われたためであろう。

なお35年度以前に入学した2年生以上の学生に対しても新制度を適用する。従って養蚕学科は繊維農学科の、製糸学科は紡織工学科の製糸コースの、紡織学科は紡織工学科の、繊維化学科は繊維工業化学科の学生として取扱われる。ただし授業は過渡期にあるため、学科によって旧制度をしばらく続けてゆく所もある。

以上2回にわたって本年度実現した改新計画の内容を詳しくお伝えした。これによって学部は小規模ではあるが、いちおう脱皮したとも云えよう。しかしわれわれは単なる機構いじりをしていっているのではなく、最終の目標は、新時代に適応した研究体制の確立と学生の真面目な勉学をとおして、沈滞しがちであった学風を刷新することにある。この面に対しても現在真剣な討議が続けられ、中には実現した施策もある。改新拡充計画は今後も熱心に続けられると思う。しかしわれわれは機構の拡充によって、ともすれば理工系大学が高等徒弟養成所に堕しやすいう危険を十分戒心し50年伝統のアカデミックな学風をいっそう助長して、学校に「勢い」をつけてゆきたいと思ふ。(1961.4.16記)

実 存 と 教 育 —ハイデガーの場合—

(4月号つづき)

信州大学講師(繊維学部) 池 尾 健 一

Ⅲ 「新」教育の反省

以上のようなハイデガーの近代批判は、いかなる光を、教育上の問題、とくに戦後日本の新教育の問題に、なげかけるであろうか?

さて戦後日本の新教育を指導したのは、いうまでもなく、アメリカの教育思想、とくにデューイを最高の指導者とする進歩主義 Progressivism の教育思想であった。しかしアメリカでは、これに対抗するものとして Essentialism の教育思想がある。ところで日本の教育は、戦後十数年を経て、さまざまな動揺を示しているが、科学技術教育や道徳教育などの主張には、エッセンシアリズムの方向にむかうニュアンスがみうけられるかのようである。したがってわれわれは、以下において、これらの問題を、しかも教育上の問題として反省するという範囲内で、進歩主義とエッセンシアリズムとを考察し、ハイデガーの近代批判との関連に、言及してみよう。

i) 進歩主義。この主義の教育主張によると、a) まず個人性の見地においては、自由と個性との尊重が、その基礎となっているように思われる。したがってその教育方法は、被教育者の自発性と興味とに訴えて、彼らの成長・発展を期

待することとなる。外側から画一的な教材を押しつけると、彼らの自発性や興味を抑圧することとなるが、このとき彼らは、その補償として、残忍性をおびてくるか、無気力となるであろう。というわけである。

ii) また社会性を見地においては、だれが教育内容のエッセンスを選択し決定するのか、という疑問を提起する。というのは、エッセンス、すなわち価値的なものはもちろんのこと、いわゆる没価値的・中立的なものも、現実には、そのときの支配階級に一方的に利用されるだけである点に、鋭い批判の目をむけているからである。

iii) エッセンシアリズム。それでは、これに対して、エッセンシアリズムは、いかに答えようとするのであろうか?

a) まず個人性の見地においては、それは、教育する側にも教育を受ける側にも、教育の力に限界がある以上、客観的な価値の序列に従って、必要最小量 minimum essentials を設定する必要がある、と答える。かかるエッセンスとそれへのドリルこそ、被教育者の活動そのものにも保証を与えるのであり、それが前提されていないと、むしろエネルギーの浪費と無気力とが結果する。公式主義とは、しばしば非難の言葉であるが、だれも数学における公式の重大な役割を否定で

きない、というわけである。

b) また社会性の見地においても、それは、エッセンスが共同社会を維持する面を強調する。民主社会は、コミュニケーションを不可欠の要素としているが、後者を可能にするのが、必要最小量であるからである。すなわち、この立場によれば、エッセンスは客観的な価値であって、社会の単なる反映ではない。たといそういう面があっても、この場合、社会を進歩的にすれば、エッセンスも進歩的役割を果たすことになるであろう。教育は、社会進歩の原動力であるよりも、社会維持の原動力であるが、まず維持されているものが進歩するのであり、その逆ではない、というわけである。

iii) 両者は総合できるか？ 以上のごとく、進歩主義とエッセンシアリズムとを比較すると、前者が教育の方法に力点をおいているのに対して、後者は内容に力点をおいているかに思われる。とすれば、エッセンシアリズムの主張するエッセンスを基礎にして、そのより有効な達成のための方法として、進歩主義をできるだけ活用する、という総合の仕方が可能となるのではなからうか？

しかしまた、進歩主義は、個人の進歩に力点をおいているのに対して、エッセンシアリズムは、社会の維持に力点をおいている。この場合両者を総合することは、木に竹をつぐような結果に陥るのではなからうか？

ところで方法と内容とがきりはなせないように、個人と社会とも、人間という基盤において、たがいに関連している。したがって、進歩主義とエッセンシアリズムとの人間観において共通するものを発見するとき、それが両者総合のための可能根拠となるのではなからうか？

iv) 形成(像)可能性 *Bildsamkeit*。たしかに両者の人間観は、その力点のおき方がことなっている。しかしそれにもかかわらず、両者とも、人間の合理的な形成可能性を前提しているのではなからうか？ エッセンシアリズムは、人間の形成 *Bilden*、人間づくり *Herstellen* をめざす積極教育であるから、それがかの形成可能性を前提することは、説明するまでもないであろう。

他方進歩主義は、みずから成長せしめること *Wachsenlassen*、その発展 *Entwickeln* の障害をとりのぞくいわゆる消極教育であるが、この場合にも、かの形成可能性が前提されているのであろうか？ まさにしかりである。それは被教育者の生活経験を重視するが、たとえばデュエイによると彼らの発展段階に即応し、とくに連続性と相互性をもった価値のある経験のみが、選択さるべきなのである。したがって進歩主義においても、カリキュラムがあるし、そのみならず、それはコア・カリキュラムにまで発展せんことをねがっている。戦後日本の新教育主張者たちにおいても、「仲間づくり」「学級づくり」のような言葉が、好んで使用されているが、すべてかかることは、合理的な形成可能性を前提せずしては、無意味となるであろう。

進歩主義もエッセンシアリズムも、人間の合理的な形成、(像)可能性 *Bildsamkeit* を、共通の基盤としている。そしてこのことは、なんの不思議も含んではいない。ハイデガーによれば、近代は、世界像 *Weltbild* の時代であったからである。機構は、進歩主義の主張する個人差にも興味の感じ方にも、すべてに一定の型をおしつける。何事をも見通し技術化する時代の宿命、これがコア・カリキュラムを可能にする根拠であったわけである。

世界像の時代とは、それを教育的に表現すると、*Bilden*、*Herstellen* (形成する) を積極的に主張しているエッセンシアリズムの時代ということになる。このような時代においては、進歩主義は、エッセンシアリズムの潤滑油といった役割しか与えられないことになるであろう。いかなる私道も、

公道に通じてのみ、私道が私道としての役割を果たしうるように、エッセンシアリズムを前提してこそ、進歩主義が進歩主義たりうるのである。かくて科学技術教育の主流がエッセンシアリズムにあることは、そして戦後教育の花形として登場した社会科もまた分節せられる運命にあることは、時代の必然的な帰結となる。

それのみではない。ただ教育上の問題として考察するかぎり、生活指導から「道徳」特設への移行も、この傾向に属するものと考え得よう。「道徳」指導要領によると、「指導内容」は、習慣・心情・人倫という方向で展開され、「指導方法」は、道徳性の発達段階を前提し、したがって特設は、教育の計画化・技術化という意味をもっているからである。このとき生活指導は、あたかも、経営管理法としてクローズ・アップされた人間関係論 *human relations* の位置を与えられることとなるであろう。雇用者の人間関係是正は、企業の能率向上というわく内でのみ、企業の潤滑油となっているのよりに考えてくると、科学・技術教育と「道徳」教育という一見無縁にみえる問題が、同時に登場してきたことも、時代の宿命として理解されよう。

以上で第一節 ii) の観点を中心とする今日のテーマに関する考察が終るわけであるが、最後に一・二の疑問を呈示してみよう。ハイデガーによると、疑問を疑問として呈示することが、人間の仕事であるからである。

思うにエッセンシアリズムの支配が時代の宿命であるということは、すなわち、いわゆる消極教育も、結局積極教育にひきずりこまれるのが時代の宿命であるということは、そのことをよしとして、端的に肯定していることにはなるまい。実存哲学の消極主義が、同時に超越主義の人間観にささえられている以上、このことは、とくに道徳教育の問題に、鋭い反省の光を投げかけているのではなからうか？ なぜなら、積極的(=実証的)な次元での事柄は、次第に計画化されるにしても、消極的(=超越的)な次元での事柄は、計画化を許さないからである。しかしまた、まったく計画化されえないものは、教育実践の問題となりうるであろうか？ 超越主義は、積極主義と記結していないにしても、人格の真実性が、積極的な教養の広さや深さに、なんらかの対応を示している以上、独自の仕方に関連しているのではなからうか？ このような疑問に直面するとき、われわれは、超越主義の検討に迫られているわけである。すなわち、いつか機会が許すならば、第一節 iii) の観点を中心とする考察が開始されねばならない。

テレビとステレオ

岩城屋ラジオ店

上田市横町 TEL 981

日本工業規格表示許可工場

日本石綿紡織株式会社

本社 長野市三輪本郷

TEL (2) 2675 (3) 0093

4—アセチルアミノ—ナフタレン—1—ラウロイルスル フオンアミド及びその誘導体と放射線の併用効果について

Effects of Combined Use of Derivatives of

4—Acetylmino—Naphthalene—1—

—Lauroul—Phonamid and X—Ray

信州大学助教授(繊維学部) 土 屋 博 教

放射線の前又は後に、化学物質を投与し、後者の放射線作用に及ぼす影響をみることは、一方では障害に対する防禦物質の探究となり、又障害を増大せしめる増感物質の発見となると同時に、他方放射線の生物作用機構の追及、又は治療への応用のみちを開き得る可能性をもっている。故に興味ある方法であり、且又かかる基礎研究を忘れてはならぬことと考えられる。

放射線の生物作用に関する研究は年来あらゆる方面から行われているが、その初期の過程について明確化されたのみであり、防禦に関して Barron その他の研究から出発、Patt, Bacq に至ったが、SH物質の効果が最も知られ、他は体系づけるに困難な種々のデータが累積しているのみである。然しこれ等の研究が多方面にわたり数多く行われていることは、増感効果に関する研究の比ではない。4—アセチルアミノ—ナフタレン—1—ラウロイルスルフオンアミドは、抗ウイルス剤の系統的研究から生れたもので、その作用機構はウイルスの増殖に必要な代謝系遮断作用より、直接不活性化にあるとされている。然しその腫瘍細胞に対する効果の有無放射線と併用して増感物質たり得るか否か等は全く知られていない。

今回かかる PANS 及びその誘導体について、マウスに於けるエールリッヒ腫瘍によりこれ等に関し、どのような効果を有するかを知るためにそれぞれの実験を行った。

- 1) . エールリッヒ腹水腫瘍細胞に於ける実験。
- 2) . エールリッヒ皮下腫瘍に於ける実験。
- 3) . 腹水腫瘍細胞の DNA 量に及ぼす PANS 及びその

他と X 線の併用の影響についての実験。

4) . DNA の顕微測分光光度計に依る測定。

以上の如く抗ウイルス剤である PANS-TW と放射線の併用が、如何なる結果を来すかを知ることは、この作用機構を推定する上に興味あることであるので、殊に腫瘍細胞について実験を行ったのであるが、先ず核分裂係数及び、核相百分率の変動についてみた結果は、PANS-TW のみの投与では、両者に対して殆んど影響のみられない量 1mg/kg でも X 線と併用すると、分裂阻止効果は激しく且長期にわたるか、24 時間以後にはやはり回復をみる。これが after effect と協調して、長期有効か否かを知るために皮下腫瘍に於いてやや長時間後の発育阻害効果をみたところ高度にではないが X 線と併用して増感効果が認められた。

結論として

- 1) エールリッヒ腹水腫瘍及び皮下腫瘍に於て、PANS-TW、及びその誘導体種について、X 線との併用効果は核分裂係数皮下腫瘍の増感に対して、PANS は増感効果がある。
- 2) 腹水腫瘍について、顕微測光法により 1 細胞当りの DNA 量に及ぼす PANS-TW と X 線の併用の影響を検討した結果、X 線単独では殆んど変化を示さないが併用で 2 時間及び 20~24 時間で、DNA 量の減少を示した。
- 3) 又その際 PANS 単独でも、30分~1 時間及び 20 時間以後で減少、3~12 時間で増加する傾向を知った。
- 4) 更に増感剤であり特異的な代謝拮抗剤である 8-Azaguanine 及び D-glutamic acid と X 線の併用の DNA 量に及ぼす影響を検討した結果、30~60 分 24 時間附近の DNA 量の変動は一般的と思われる結果を得た。

以上のことから PANS の作用機構は、核酸代謝系のどこかに関連して働いているものと考えられる。

(医学博士 賛助会員)

針塚先生追想原稿および資料の募集

追想録をお寄せ下さい。追想録の内容は先生の小伝、先生の手紙感想文などのほかに多数の追想文を取録することになりました。朝夕先生に接した学生時代のほほえましい思い出、慈愛のお叱りに感激したり、社会人になってからの尊い御教導や御懇情の思い出などをおもいおもいの感懐をこめて書き綴って下さい。それはただに先生の追想記であるばかりでなく、同窓学友あるいは恩師諸先生の回想にもつながる管です。あなたでも結構です。あなたの追憶をお寄せ下さい。また写真や資料もお借りしたいものです。それを編集担当者において処理編集し針塚先生追想録としての完璧を期したいと思います。

追想原稿は 400 字詰原稿用紙(縦書) 6 枚以内、〆切期日は本年 5 月末日とします。資料および写真はなるべく多数、返却を希望される方は添記して本年 5 月末日迄に御提供下さい。

「針塚先生追想録」予約募集

この追想録は限定出版ですが、その部数をきめることは頒価にも関連するむづかしい問題です。それで予約募集をします。期日は本年 5 月末日。頒価は一応 500 円~1000 円と見込みましたがなるべく 500 円迄切下げよう努力したいと思います。周囲の方々にもおすすめていただき 1 部でも多く予約申し込み下さい。

篇志寄附について

計画的な募金はいたしません、心からなる篇志寄附は歓迎すべきことです。追想録がなるべくひろく頒布出来るように、またこの事業がスムーズに運ぶように篇志の御援助をお願いします。

上田市信大繊維学部千曲会館内

針塚先生追想録刊行委員会

36年度入学式挙行さる

36年度の入学宣誓式は4月12日午前10時より本学部講堂で挙行された。

伊藤学長の式辞に始まって入学生代表繊維機械学科杉本作蔵君の宣誓及び宣誓簿への署名があり、ついで小泉学部長の新生への激励の辞、学生後援会副会長蒲生俊典博士の祝辞、在学生代表齋所裕君の歓迎の言葉、新入生代表杉本君の答辞があった後、新入生緊張のうちに各科毎の宣誓簿への署名がなされ、11時半無事式を終った。

因に入学者状況氏名は次のとおりである。

学科別	志願者	合格者	入学者
繊維農学科 (養蚕学科)	23	29	24
紡織工学科 (紡織学科)	72	36	31
同、製糸学コース (製糸学科)	29	10	9

繊維工業化学科 (繊維化学科)	232	38	36
繊維機械学科 (新設)	170	45	41
合 計	526	158	141
蚕糸別科、養蚕	6	4	2
同、製糸	9	7	3
合 計	15	11	5

備考

学生募集は旧制度 (カッコ内の学科) で行った。

志願者は第一志望のもののみを掲げた。

繊維農学科の合格者数が志願者数より多いのは第二、第三志望から合格させたからである。

なおこの外にインドネシアの親善留学生、セレベスのマカッサル市出身 Abdul Hamid Empo アブドウル・ハミド・エムボ君を正規の学生として入学させた。

入学者のうち長野県出身者は合計53名、県外出身者は86名である。

昭和36年度入学許可者氏名

繊維農学科 (養蚕学科)		足立 貞夫 兵庫県西宮高校		アブドウル・ハミドエムボ	
計 24 名				インドネシア・セレベス (国立セマラン高校)	
氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校
青森 裕二	野 沢 北 高 校	池田 嘉邦	上 田 高 校	上 田 高 校	
吾妻 直	上 田 高 校	榎本 誠治	岐阜 大 垣 北 高 校	岐阜 大 垣 北 高 校	
大久保 紳夫	屋 代 東 高 校	海老名 敬樹	岡 山 県 朝 日 高 校	三 重 県 上 野 高 校	
大谷 義憲	京 都 東 舞 鶴 高 校	晴彦 晴彦	諏 訪 清 陵 高 校	諏 訪 清 陵 高 校	
奥田 紀之	岩 手 一 関 第 一 高 校	大森 庄次	福 岡 県 明 善 高 校	福 岡 県 明 善 高 校	
小野 哲汎	宮 城 県 石 巻 高 校	沖田 順子	神 川 県 小 田 原 高 校	神 川 県 小 田 原 高 校	
川島 信二	京 都 西 舞 鶴 高 校	片岡 裕	野 沢 北 高 校	野 沢 北 高 校	
川端 秀郎	愛 知 県 中 村 高 校	小池 芳子	飯 山 北 高 校	飯 山 北 高 校	
木村 公朗	兵 庫 県 尼 崎 北 高 校	河野 貴一	上 田 高 校	上 田 高 校	
橋部 忠一	三 重 県 津 高 校	酒匂 景一	鹿 児 島 志 布 志 高 校	鹿 児 島 志 布 志 高 校	
田 勇太郎	北 海 道 岩 見 沢 東 高 校	佐藤 芳子	須 坂 西 高 校	須 坂 西 高 校	
佐藤 孝北	上 田 染 谷 丘 高 校	武田 克明	岡 山 県 津 山 高 校	岡 山 県 津 山 高 校	
清水 千恵子	愛 媛 川 之 江 高 校	田中 肇	大 町 高 校	大 町 高 校	
鈴木 規久	木 曾 西 高 校	寺島 秀孝	大 町 高 校	大 町 高 校	
高橋 武文	千 葉 県 船 橋 高 校	富田 紘二	北 海 道 小 樽 潮 陵 高 校	北 海 道 小 樽 潮 陵 高 校	
土橋 正三郎	京 都 府 京 都 高 校	中村 和男	富 山 県 中 部 高 校	富 山 県 中 部 高 校	
中井 龍治	大 町 高 校	中山 コノエ	福 岡 県 山 田 高 校	福 岡 県 山 田 高 校	
羽 基治	愛 知 県 豊 田 高 校	西山 登立	大 町 高 校	大 町 高 校	
羽 基治	愛 知 県 東 邦 高 校	星 合 文隆	北 海 道 釧 路 湖 陵 高 校	北 海 道 釧 路 湖 陵 高 校	
速水 克正	愛 知 県 恵 那 高 校	宮下 武美	上 田 高 校	上 田 高 校	
水野 和光	岐 阜 県 恵 那 高 校	渡辺 真澄	愛 知 県 一 宮 高 校	愛 知 県 一 宮 高 校	
村上 彰	福 岡 県 豊 彦 高 校	青木 三千夫	上 田 高 校	上 田 高 校	
村本 茂樹	山 口 県 岩 国 高 校	池田 啓作	新 潟 県 十 日 町 高 校	新 潟 県 十 日 町 高 校	
山本 満寿夫	上 田 高 校	伊奈 勉	静 岡 県 沼 山 高 校	静 岡 県 沼 山 高 校	
紡織工学科 (製糸学科)		岩本 友三	須 坂 西 高 校	須 坂 西 高 校	
計 9 名		上原 勝	飯 田 高 校	飯 田 高 校	
岡田 英彦	三 重 県 上 野 高 校	内田 恒治	愛 知 県 南 陽 高 校	愛 知 県 南 陽 高 校	
門脇 弘志	鳥 取 県 米 子 東 高 校	大木 和史			
金 碩圭	東 京 都 立 大 学 附 属 工 高 校				
久保田 雄三	屋 代 東 高 校				
小林 假朗	兵 庫 県 兵 庫 高 校				
坂根 勝史	京 都 加 悦 谷 高 校				
佐 都	岐 阜 県 恵 太 高 校				
松下 勉	京 都 府 網 野 高 校				
高島 國至	上 田 高 校				
紡織工学科 (紡織学科)					
計 31 名					
県 勇次	大 町 高 校				
足立 一彦	兵 庫 県 生 野 高 校				

緒方 昌子	三重 県 津 高 校	小林 優	新 潟 県 長 岡 高 校
唐沢 裕子	伊 那 弥 生 ケ 丘 高 校	佐野 寛	愛 知 時 習 館 高 校
北村 裕	兵 庫 県 長 田 高 校	三分一 義夫	山 口 県 岩 国 高 校
熊谷 潤	飯 田 高 校	八郎	奈 良 県 奈 良 高 校
小林 かほる	松 本 嶺 ケ 崎 高 校	菅沼 勝利	愛 知 豊 橋 東 高 校
新瀬 紘一	野 沢 北 高 校	杉本 作蔵	滋 賀 県 高 島 高 校
瀬戸 紘一	大 阪 府 桜 塚 高 校	高島 俊夫	茨 城 県 竜 ケ 崎 第 一 高 校
土屋 正弘	上 田 高 校	高杉 茂生	岡 山 県 玉 野 高 校
戸叶 辰也	上 田 高 校	田幸 淳子	長 野 高 校
永治 辰也	岐 阜 県 瑞 浪 高 校	知野 国夫	屋 代 東 高 校
西尾 紘一	愛 知 県 旭 丘 高 校	中塚 吟造	大 阪 府 高 津 高 校
長谷 実	宮 城 県 仙 台 第 一 高 校	永井 正昭	松 本 県 ケ 丘 高 校
畑 雄司	伊 那 北 高 校	嶋海 聡	静 岡 県 浜 松 北 高 校
林 隆男	上 田 高 校	西田 商温	京 都 府 洛 陽 高 校
平川 清一	京 都 緑 野 高 校	納田 利行	香 川 県 高 松 高 校
平沢 重信	上 田 高 校	野村 良康	徳 島 県 城 南 高 校
松井 亮一	赤 穂 高 校	深沢 捷男	新 潟 県 長 岡 高 校
三隅 忠彦	須 坂 西 高 校	富士谷 武博	大 阪 三 國 丘 高 校
森岡 光	東 京 都 竹 早 高 校	法橋 侯博	大 阪 夕 陽 丘 高 校
山岸 哲一郎	上 田 高 校	牧 武司	愛 知 県 岡 崎 高 校
結城 惟行	山 口 県 大 嶺 高 校	松原 隆生	愛 知 県 西 尾 高 校
和田 文藻	福 岡 県 田 川 高 校	丸山 克彦	松 本 県 ケ 丘 高 校
	上 田 高 校	丸山 常	新 潟 県 高 田 高 校
	野 沢 北 高 校	村沢 正紀	飯 田 高 校
	長 野 工 業 高 校	山本 真名夫	石 川 県 金 沢 大 学 付 属 高 校
	福 岡 県 戸 畑 高 校	横関 晴弘	上 田 高 校

注 4月から本学部の機構が改められ、各学科名はそれぞれ () 内の学科名に改称された。

蚕糸別科養蚕課程

計 2 名

大日方 勝利	上 田 高 校
高山 知岡	南 安 農 農 高 校

蚕糸別科製糸課程

計 3 名

佐藤 守	東 京 都 文 館 高 校
佐野 喜美子	飯 山 南 高 校
清水 喜代子	飯 山 南 高 校

会員だより

群馬支会総会出席の記 (36-3-21)

彼岸桜の咲きそろった前橋公園内公民館において30余名の会員が集まって開かれた。この公民館はかつては来橋する貴顕の歓迎場として前橋最高の料亭であったが今はすっかり庶民的となり、当日も女青や千曲会の会合など併せて数組が開かれていた。当日は好天に恵まれ春霞ただよう眼下の競輪場では満員のファンを吞んで競輪が行われており、近くの広場ではコー犬のコンテスにぎやかに行われ人気を呼んでいた。会は小山支会長の挨拶、事業の報告に始まり、私も本会における会の運営方針や母校の近況などを報告し近接支会としての本会への協力を強く要請した。つづいて役員改選があり選考委員において別記新役員が選ばれた。尚異色あることは支会の相談役理事まで選ばれたことだ。これは支会の連絡、活動を強固円滑にしようとする熱意のあらわれで人選も各地区毎に配置されていた。懇親会に先だって新支会長の挨拶とともに施政、運営方針の説明があり今後、若い年令層の会員と話し合い、千曲会発展に協力すると言う力強い発言があった。私も清新潑潑とした新役員の顔ぶれに大いに賛意を表し、今後の活躍を要請した。ついて昨年ローマオリンピックの見学や教育事情を中心として5ヶ月にわたって欧州各地を視察して帰った松岡先生(旧教官)の実益とユーマアにとんだ視察談を聞いた。特に東西ドイツにおける社会情勢や民情のお話は傾聴すべきものがあり、吾々日本人としても反省しなければならぬものがあった。群馬は針塚先生の生地であり、永眠の地でもあるので同先生の追想録刊行には特別の協力をして呉れるよう要請した。

支会長 目崎武美氏、(蚕26) 副支会長 岡田広太氏、(糸27) 岩井実氏(紡23) 理事小柳源一氏以下9名、相談役小山 清氏以下16名、(荻原清治記)

群馬支会総会報告

上信越国境の山々はまだ白雪におおわれてはいるが、上州路にも本格的な春の訪れが間近い3月21日に前橋市公民館に於て群馬支会の総会が開催された。参集会員は約30名であったが、桜のつぼみも赤味をおびるような、うららかな日和に恵まれ母校より荻原理事長を迎えて盛会であった。

会議は小山支会長の挨拶に始まり、荻原理事長の本会並に母校近況報告、支会幹事から会務、会計の報告、会費納入促進方法の検討等があったのち、役員改選に入り、小山支会会長を委員長とする9名

の設備委員により、理事、幹事、相談役を夫々選任し支会長に目崎武美氏(蚕26)が万場一致で選ばれた。

引続き前橋商業高校々長松岡重三郎氏(旧母校教授)より約1時間に亘って欧州視察談をうかがった。

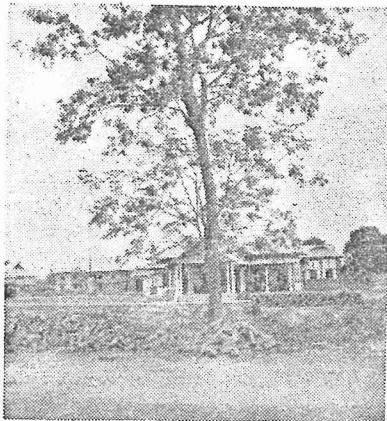
終って懇親会に移り、新旧支会長の挨拶を皮切りに街のネオンが点るまで語り歌い、母校並び千曲会の発展を祈りつつ散会した。(桑島記)

印度だより 湯原 諱

印度往復5回のレコードをもち、目下印度政府技術顧問として活躍中の湯原諱氏(紡7)から荻原理事長あて次のように活動の模様を寄せられて来ました。

なお湯原氏のアドレスは次のとおりであります。

Makoto Yuhara
Technical adviser to The Govt.
of Assam
% Pine Wood hotel
P.O. Shillong (Assam)
India



前略 突然の帰国にて、あわただしい内に日も経過、再び当地に舞戻ると言うため御話もゆっくりして居る時間も無く失礼しました。2月17日羽田発の air india の Boonjingjet 機にて同日夕刻8時(Local time)に印度の地を踏み翌日は国内機にて再び当地まで参ったような次第です。翌日より事務の懸案事項の整理又現場(工場建設)迄行ったりして居りつい御無沙汰いたしました。

仕事も私の留守中に完了するよう命じたことが資材不足、その他の止むを得ない事情のためとはいえ出来上っておらなかった、のには驚いたり、シャクにさわたりで全く苦勞します、併しこちら式に考えれば進捗して居るかと思ったりしています。

最近はいよいよ扇風機も廻り電灯もつくようになりました。この間高圧送電の事より、工場計画および飲料水も不自由のため地下にボーリングをした。(試掘

数回)ようやくさがし出した水……全く紡績屋以外の仕事迄やらねばならず、面白い面もありますが容易のことではありません。ようやく写真のような程度になり、目下日本より2名の Engineer に来てもらい更に9名増員の運びになって来ましたような次第です。8月迄に是非試運転出来るようにしたい予定で居りますそれから当地の野亜菌を自動繰糸機にて繰糸迄持つて行くことも計画中です。何れ今度帰国の際はゆっくり御話もしたく思っています、とりあえず御無沙汰の御詫びと近況お知らせします。会員皆様にも宜しく。草々

那須野昭文氏工学博士授与さる

倉敷レイヨン、研究所勤務の那須野昭文氏(繊維化学科7回昭和24年卒)はかねて京都大学に「ビニロンの染色に関する研究」の学位論文を提出中であったが3月20日付京都大学より工学博士の栄誉を授与された。詳細は追って登載の予定である。

日本化学会年會に出席して

4月1日から4日迄日本化学会年會が東京立教大学で開かれ化学科の助手、教務員は全員出席した。今年の傾向としては……と云うより最近年毎にその傾向があるが科学技術の進歩の度が更に早くなったと云う事が研究発表を通じて感じられた。

又、会社関係の研究所の発表が多くなったことも民間が研究に——(基礎研究にさえも)——力を入れて居ることが分かる。

特別講演も何れも大会場が満員の盛況であった。

東工大の岩倉義男教授は、今注目されているナイロンの新合成法スニヤ法を始め新しい高分子化学合成工業について、

京大岡村誠三教授は、放射線による固相重合反応が動力学的に解明されつつあることを、又阪大蛋白質研の成田耕造教授は、分子量14,000のリボヌクレアーゼ1,800のタバコモザイクウイルス蛋白質の構造は決定され、更にそれ以上の高分子量の蛋白質を究明している事に就いて特別講演を行った。

以上の事から感じられたことは、中央の大学や大会社の研究所は新鋭の機械と組織化された頭脳を動員して研究を行って居り、貧弱な施設と足らない人員しか持たぬ本学部の様な地方大は、今後両者の拡充が強く望まれると共に研究のあり方も考えなければならぬと感じられた。

なおこれに参加する我々大学関係者は殆んど自費で参加しているのである。というのは旅費は一年分でも東京往復の汽車賃がやっと位僅かであるから……。

(大屋記)

母 校 ニュース

3 大学体育大会開催予報

繊維学部のある 3 大学体育大会は本年は当学部が当番にあたっており 6 月 2 日 3 日両日にわたって行われる。

学 会 等 開 催 予 報

1. 高分子物理, 生体物理合同討論会が当学部において 5 月 15 日から 4 日間にわたり開催が決定している。

2. レオロジー討論会は 10 月 16 日から 3 日間にわたり本学部で開催に決定。

3. 日本化学会討論会は毎年 10 月行なわれており本年はコロイド化学の 100 年祭にあたるので一応辞退したが当学部で開催することに決定, 日本化学会と日本油化協会との共催の形で, 10 月 12 日から 3 日間にわたり行うことになり, 参加人員は 200~300 名予定である。

4. 全国繊維工学会教育研究会は繊維工学教育のあり方についての研究討論会で主催は繊維学会で当学部において 7 月 6 日から 3 日間にわたり行うことに決定している。

松崎捨太郎氏退職される

厚生補導課の松崎さんはこの 3 月, 定年により退職された。松崎さんは昭和 16 年繊維化学科へ入られて事務関係を担当されていたが 25 年新制大学への移行にともなって長野の教育学部へ転じられたが 28 年再び本学部の会計課, 厚生補導課の事務にたずさわっておられた。

共同研究に咲いたロマンス

紡織工学科の篠原昭氏と, 同じく松橋房江さんのお二人には, 共同研究がとりもつ縁となって, 去る 4 月 4 日めでたく御結婚にゴールインされました。お二人とも本学部第二回の御卒業で, 篠原氏は目下東京工業大学に学位論文を提出中であり, 将来が嘱望されております。

清水隆三氏結婚される

養蚕学科長島研究室の清水さんは, 3 月 15 日の吉日に田口先生の御媒酌によりめでたく華燭の典をあげられた。新婦は上田市山口の武井泰子さんで, 今後清水さんは武井姓を名乗られることになった。田口, 長島両先生にお聞きした所, 両先生のかつての青春の血をよみがえらせるほどの御似合の美しいカップルであった由である。

本 会 記 事

学部改新期成同盟会募金委員会決定す
2 月 17 日開催の役員会において, すでに発足着々進捗している学部改新期成同盟会の事業遂行について, 本会として全面協力するため千曲会内に募金委員会を結成する件については学内理事会に一任されておったので検討の結果千曲会理事会をもって学部改新期成同盟会募金委員会にあててことに議決されたので 4 月 1 日付千曲会理事に譲承の上御協力下さるよう発信した。

学部改新期成同盟会理事推挙について
本会員中から学部改新期成同盟会の理事を推挙することについては, さきの役員総会において学内理事会に一任されていたので, 地域的その他種々検討の結果次の諸氏を推挙することに決定し, 期成同盟会長から理事を委嘱されることになった。

既に期成同盟会理事に委嘱済み氏名
(順序不同敬称略)

小林 運美 (糸 16) 笠原 正巳 (糸 15)
根岸 只吉 (紡 4) 三谷 勝 (糸 15)
石坂虎治郎 (糸 5) 山口定次郎 (蚕 12)
加子 三郎 (蚕 27) 栗山 喜吉 (紡 2)
有賀 文雄 (糸 1) 若林新一郎 (糸 10)
井野 正夫 (糸 18) 野口新太郎 (紡 2)
藤田 四郎 (蚕 22) 加藤秀次郎 (化 1)
江口 晴雄 (化 1) 安井 健一 (紡 7)

安井 義忠 (糸 6) 荻原 清治 (糸 12)

既に期成同盟会監事に委嘱済み氏名

橋詰 英雄 (紡 4) 小宮山太助 (糸 8)

今回期成同盟会理事に推挙の氏名

字治 義春 (紡 7) 角田 勝郎 (糸 20)
沓掛 久雄 (蚕 19) 宮城 博 (蚕 13)
高馬 一郎 (糸 17) 江野村一雄 (紡 7)
小関 悦郎 (糸 19) 馬場 長市 (糸 16)
尾沢 敏男 (糸 22) 小西 高雄 (化 1)
鈴木 玄九 (糸 18) 佐藤 雅久 (化 3)

記念風呂敷下さいたいします

50 周年記念風呂敷の残部下さいたいします。御希望の方は下記により申下さいます。

1. 価格荷造送料を含み 1 枚 300 円
2. 振替長野 6243 番又は現金送金申込のこと。

故川端吉成先生遺児後援資金募集

さきに御連絡申し上げました, 故川端吉成氏遺児後援資金応募申込みは, 会員皆様の御援助により非常に好成績を示しております。御希望の方は, これも故川端先生の御人徳のいたす所と, 嬉しく, 深謝しております。しかし, なかには御多忙のために, お忘れの方もあるかと存じますので, ここに, 千曲会報紙上をおかりして, あらためて御通知申し上げ, 御遺族に対する一層の御援助をお願いする次第です。申込書を御送付いただくまでも, 直接送金されて結構です。この場合なるべく振替用紙の御利用をお願いします。口座番号は, 長野 6243 加入者名は社団法人千曲会と御記入下さい。なお裏面の通信欄には故川端先生遺児後援資金と明記して下さい。

工 作 機 械 製 作 販 売
暖 房 配 道 工 事 一 式
上 水 木 建 築 請 負

上 田 市 大 字 常 入 1850

宮 島 工 業 株 式 会 社

取締役社長 宮 島 定 義

TEL 2185~7

島津の科学機械
松下の計測器

有 限 公 司 川 上 科 学 キ カ イ 店

川 上 保 人 (学化 1 回卒)

上 田 市 末 広 町 5293
電 話 (上 田) 2321 番

母校にお出での際は当ホテルへ

長 野 県 小 県 郡 塩 田 町

別 所 温 泉

花 屋 ホ テ ル

電 話 (塩 田) 13・31・32 番



皆 様 の 百 貨 店

上 田 ・ 中 央

と ぽ て び や

信州大学繊維学部第9回卒業生

養蚕学科

氏 名	勤 務 先	勤務先住所
池浦 雅博	藤本産業 K K	名古屋市中区広小路4ノ8
市川 忠史	岐阜県明知中学校	岐阜県恵那郡明知町
浮野 義博	吉忠 K K	京都市中京区室町通四条上ル
大場 孝	市川毛織 K K	千葉県市川市市川町鴨ノ台
奥田 守孝	那星産業 K K 神戸支店	神戸市生田区
上村 清	北海道大学農学部	札幌市
蒲生 光代	芹田長野文化高等学校	長野市上千田
北見 俊男	飯田市東中学校	飯田市
小平栄一郎	東京昭和証券 K K	東京都中央区小網町3の1 (住) 東京都世田ヶ谷区代田1の768 富士千賀方
小森 三郎	長野県蚕業試験場	長野市岡田町
柴田 豊	愛知県蚕業試験場	愛知県江南市ほてい町
島田 明昭	松田産業 K K	長野市
鈴木 正明	片倉工業 K K 石原製糸所	埼玉県熊谷市
関川 利治	長野県蚕業試験場	長野市岡田町
田村 博一	武田薬品工業 K K	大阪市東区道修町
戸塚 正彦	山田熊染色 K K	大阪府堺市深井清水町1421
永井 建	三共生興 K K	東京都中央区日本橋人形町
西田 勝雄	埼玉繊維工業 K K 熊谷工場	埼玉県熊谷市
御子柴清由	高原社	松本市桐元町
宮川 賢次	日本ケミカル工業 K K	大阪府東淀川区淡路町新町208
吉池 昭夫	農林省蚕糸試験場化学部	東京都杉並区高円寺2の104

製糸学科

安倍 正純	倉敷繊維加工 K K	岡山県倉敷市
安藤 勉	日本理研ゴム K K	東京都品川区平塚3丁目768
井上 越雄	タキロン化学 K K	大阪市東区北久太郎町2の45
今村 久	藤本産業 K K 東京支店	東京都千代田区大手町1ノ3 産経別館3階 (住) 東京都中野区鷺宮5の496 岩井方
浦野 里美	日商 K K	兵庫県芦屋市翠ヶ丘90日商寮内
小池 哲司	大機ゴム工業 K K	東京都墨田区吾嬬町東3ノ9 大機ゴム大機寮
佐藤 和義	日本オイレス工業 K K	東京都大田区南六郷1ノ45 日本オイレス工業 K K 蒲田寮
進藤 賢士	有沢製作所	新潟県高田市南本町有沢製作所寮
鈴木 猛	オリンパス光学工業 K K	伊那市大字伊那5128
塚田 光朗	内外編物 K K	東京都中野区上高田2ノ350
正田 滋	神栄生糸 K K	京都府綾部市
松尾 衛	東京セロファン紙 K K	東京都足立区新田2ノ9ノ6 和光寮
松田 高志	三共生興 K K 東京支店	東京都中央区日本橋人形町3ノ3
宮坂 照彦	信大繊維学部	上田市下川原柳町
山本 繁	豊田通運商事 K K	中野農蚕社方 名古屋市中川区西日露町10
渡辺 正俊	弁天商會	東京都足立区下沼町585

専攻科

兎東 伴之 片倉ハドソン靴下 K K 埼玉県大宮市吉敷町4ノ239

紡織学科

井原 妙子	三共生興 K K	東京都中央区日本橋人形町3の3
江竜 耕次	福田紡績 K K	豊橋市幸昌町字中西8ノ8
大池 克夫	日立工事 K K	東京都千代田区神田鎌倉町2の3 日立鎌倉橋別館
岡村 勇	愛知紡績 K K	名古屋市中区南園町3ノ7 日
小野沢勲夫	大日本紡績 K K	大阪市東区安土町2の20
皆瀬 貞夫	東邦レーヨン K K	東京都中央区日本橋通3の6
北沢 昭義	日本レイヨン K K	大阪市東区今橋3の5
久保 義明	内外編物 K K	東京都千代田区神田美土代町22
黒河 信義	帝国産業 K K	大阪市北区中之島2の18
笹岡 孝彦	大阪金属工業 K K	大阪市北区梅田47
杉藤 岑夫	蝶理 K K	新阪神ビル
高橋 清	日東紡績 K K	大阪市東区安土町4の32
知野 光伸	日本紡績検査協会	東京都中央区八重洲6の1
辻田 俊郎	九江飯田 K K	大阪市東区内久宝寺町2の25
所 周一	東洋レーヨン K K	大阪市東区本町3の3
齋原 淳介	三菱レイヨン K K	東京都中央区日本橋室町2の1 三井ビル
中島 邦夫	都築紡績 K K	東京都中央区京橋2の8
中野喜久男	兼松羊毛工業 K K	名古屋市中区八百屋町1の3
野呂田 進	帝国人造絹糸 K K	大阪市東区淡路町5の33
藤原 孝行	伊藤忠商事 K K	大阪府堺市深井清水町1421
北条 幸男	三菱商事 K K	大阪市東区本町2の38
三沢 正介	市川毛織 K K	東京都千代田区丸の内2の20 三菱商事ビル
三刀谷 毅	日立工事 K K	東京都文京区本郷1の9
村野 美	横浜ゴム製造 K K	東京都千代田区神田鎌倉町2の3 日立鎌倉橋別館
柳田 苗	三共生興 K K	東京都千代田区大手町104 大手町ビル
横井 博正	大阪金属工業 K K	東京都中央区日本橋人形町3の3
脇本 泰治	旭化成工業 K K	大阪市北区梅田町47

繊維化学科

浅輪 出	富士写真フィルム K K	東京都中央区銀座西2ノ2
井田製薬市	日本油脂 K K	東京都千代田区丸の内2ノ3 (東京ビル六階)
小川原洋興	安宅産業 K K	大阪市東区今橋5ノ14
尾沼 安雄	帝国人造絹糸 K K	大阪府堺市深井清水町1ノ44
川上 博美	九江飯田 K K	大阪市東区本町3ノ3
桑田 昌	長瀬産業 K K	大阪市西区立売堀南通1ノ19
酒井 啓助	東洋化学 K K	神奈川県鎌倉市台79
塩恵 沢治	日本染色 K K	東京都北区岩淵町2ノ3
高橋 修三	日本レーヨン K K	大阪市東区今橋3ノ5
竹内 康弘	倉敷レーヨン K K	大阪市北区梅三町2
竹前 皓司	三菱商事 K K	東京都千代田区丸の内2ノ20
田中 秀雄	日東紡績 K K	東京都中央区八重洲6ノ1
堤 進	東京セロハン紙 K K	東京都中央区銀座3ノ3
寺島 健治	大機ゴム工業 K K	東京都千代田区内幸町2ノ16
中川雄之介	花王石鹼 K K	東京都中央区日本橋馬喰町2ノ1
中曾根一元	ライオン油脂 K K	東京都江戸川区平井3
野上 勲	那星製糸 K K	京都府綾部市青野町
林 勝巳	三菱レーヨン K K	東京都中央区京橋2ノ8
馬場 論	呉羽化学工業 K K	東京都中央区日本橋富沢町10番地ノ14

会 員 動 静

柳沢 六平 紡16	安 筑	呉羽紡績KK大町工場(大町市若宮町同上(住)社宅B-1)
菅野 正文 糸28	東 京	明豊金属株式会社(東京都江戸川区東船堀町 667 (住)千葉県市川市国府台3丁目 447ノ35)
芳谷 富雄 蚕24	栃 木	栃木県小山市上町芳谷勘次方
宮沢 正彦 学紡3	山 陽	三菱ボンネル広島工場(広島県大竹市玖波町1392正木勇方)
西原 淳一 蚕17	北 信	長野県農地経済部農政課(長野市)(住)長野市堤橋213
池田 俊郎 蚕21	北 信	長野県農地経済部蚕糸課桑園係長(長野市)(住)従前通
西村 国男 蚕29	北 信	長野県蚕業試験場農学博士(長野市岡田町)
西沢 政人 蚕23	東 京	昭栄製糸KK本社(東京都神田区駿河台3の1)
安部 和 蚕13	福 島	福島県立小野高等学校長(福島県田村郡小野町寺下)(電話134)
金一 光 蚕34	北海道	北海道大学薬学部助教授(理学博士)(住)札幌市南七条西16丁目井上芳
中村 文雄 蚕35	上 小	長野県上小地方事務所(上田市前田町)
西田 正 蚕21	福 島	福島県蚕業試験場会津若松支場(会津若松市)(住)会津若松市一箕町八幡門田
若林 清武 糸15	神奈川	日本絹業協会(弘リヨン駐在)
馬場 糸19	神奈川	片倉工業KK横浜出張所(横浜市中区本町4の38片倉ビル(住)横浜市中区豆口台155)
松崎 滋 糸29	神奈川	山文商事KK(横浜市中区北仲通5ノ57帝蚕ビル内)(住)横浜市中区保土ヶ谷区二俣川町6411
神崎 閑一 糸23	神奈川	農林省輸出品検査所横浜支所(横浜市中区北仲通5ノ57農林省合同庁舎)(住)横浜市中区築糸23Cの9
塚田 和磨 糸25	神奈川	郡是製糸KK横浜出張所(横浜市中区北仲通り5ノ57帝蚕ビル内)(住)横浜市中区港北区篠原町1836
久保 博俊 糸35	石 川	片倉工業KK北陸駐在所(金沢市高岡岡町44)
山田 信 化1	近 畿	大和紡績KK大阪本社(大阪市中区南久太郎町4の25の1)
堀内 徹 学化7	三 重	倉敷紡績KK津工場(三重県津市江戸橋3丁目85)
塚田 征春 蚕3	安 筑	自営(松本市清町2の3)
高沢 弘明 学化8	安 三	郡是製糸KK研究所(京都府綾部市青野)
神林 茂 糸37	三 丹	郡是製糸KK亀岡工場(京都府亀岡市)(住)同上社宅
高橋 保雄 蚕34	北 信	長野県農地試験場(長野市中御所)(農学博士)
中島 熊保 糸19	愛 媛	愛媛県宇和島市丸の内4区
牧野 春雄 糸10	徳 島	徳島県阿南市福村町北筋82
棚原 春彦 糸8	兵 庫	是則運送店(神戸市中央区浜辺通8)
塩田 健介 糸11	兵 庫	神栄生糸株式会社(神戸市生田区中山手通2-108)
小林 英夫 学紡3	三 重	鹿毛紡績KK鈴鹿工場(鈴鹿市)
山本 治彦 化3	福 島	通産省福島繊維製品検査所(福島市)
下村 竜 化1	埼 玉	兼松羊毛工業藤工場(藤市)
西沢 一男 学紡8	兵 庫	群是製糸KK塚口工場(兵庫県尼崎市塚口)
永山 正秋 蚕5	宮 崎	宮崎市吉村町平塚1842の13
小野 昭夫 蚕35	宮 崎	片倉工業KK郡山工場(郡山市宇田中38)
阿部茂一郎 蚕15	群 馬	群馬県立新田農業高校(群馬県新田郡大根999)
由井 千幸 糸16	諏 訪	岡谷市湖畔2丁目71(勤従前

野村 英夫 紡17	愛 知	名古屋市中千種区区内千種区鍋屋上野町3538旭紡績社宅
和田 貞政 紡10	兵 庫	通産省神戸繊維製品検査所(神戸市中央区二宮町1丁目22)
金井 弘 蚕別2	埼 玉	埼玉繊維工業KK本社工場社宅内(埼玉県本庄市2875)
大森 文作 蚕33	群 馬	高崎蚕業事務所(高崎市高松町9)前橋市曲輪町164
黒岩 君雄 紡14	東 京	東洋レーヨンKK(東京都中央区日本橋室町)
桜井 勉喜 学糸2	京 滋	京都市下京区西七条月読町柳橋アパート内 勤務従前通り
清水 健一 糸21	上 小	東信米穀上小営業所(上田市松尾町)上田市神科長島(旧姓倉島)東京都新宿区四谷4ノ23
前原富士子 糸別3	東 京	立科中学校(長野県北佐久郡立科町)
河沢 宏 農3	北佐久	埼玉繊維工業KK熊谷工場原料課(熊谷市石原1ノ102)
山岸 武 蚕別5	埼 玉	片倉工業KK龜崎製糸所(山梨県龜崎町)
吉野 史朗 学糸1	山 梨	片倉工業KK白石製糸所(宮城県白石市梅小路43)
永田 俊三 糸21	宮 城	片倉工業KK加須工場(埼玉県加須市上三俣385)
馬場 昭 学糸2	埼 玉	小千谷税務署長(新潟県小千谷市)(住)高崎市日光町11)
佐藤 佳良 紡16	越 佐	自営 群馬県吾妻郡中之条町西中ノ条
関田 九平 蚕5	群 馬	信州大学繊維学部繊維工業化学科(住)長野市西長野478
大屋 正尚 化9	上 小	

信州大学繊維学部第9回卒業生 繊維化学科(つづき)

蛭川 嗣久	富士紡績KK	東京都中央区日本橋本町2ノ1
福岡 孝史	丸紅飯田KK	大阪市東区本町3の3
古谷 隆男	東洋レーヨンKK	東京都中央区日本橋室町2ノ1
柳沢 正良	東邦レーヨンKK	東京都中央区日本橋通3ノ6
山越 一男	東洋紡績KK	大阪市北区堂島浜通2ノ8
山岸 文明	第一工業製薬KK	京都市下京区七条千本南
山本 実	日本ライヒホルドKK	東京都中央区日本橋通り3ノ3
善積 寛明	東洋ナイロン燃糸加工KK	栃木県足利市助市1ノ680
若林 吾郎	高分子化学工業KK	大阪市北区空町1ノ23

唐沢正平氏御逝去

アジア協会蚕糸業委員会幹事長唐沢正平氏(蚕2)には御病氣にて療養中のところ遂3月22日御逝去されました。謹んで弔意申し上げます。

3月25日東京都中野区上高田1の33の自宅において告別式が行われ、氏の生前業会での功績御経歴をたたえらるにふさわしく多数の名士が焼香されました。本会よりは坂口育三理事代表して焼香されました。

編 集 室 よ り

学部の改組拡充実現によって新学期から繊維機械学科が増科し既存学科も新しい時代にそった内容と学科名となり、全国各地から優秀な学生の入学により学園も五月空のように清新な空気がただよい大なる希望のうちに開始された。

針塚先生追想録刊行について担任委員が苦心を払われておりますが、温故知新立派なものを仕上げるので、その時代の会員は勿論多くの会員から追想録の御寄稿と御注文を下さるよう御高配願います。

編集委員	小林 尚一	香山 清和	西村 善次
	柳沢 幸男	中原 武	一之瀬匡典
	小山 定	大屋 正尚	白井 要範

4月号3頁1行目唯物論は誤植につき唯理論に訂正いたします。